平成31年3月3日・10日　VoL.1106

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人　優和

TEL０３-３４５５-６６６６
FAX０３-３４５５-７７７７

経営者への活きた言葉

いよいよ「密度の経済」の時代へ　　三品　和広（神戸大学大学院教授）

１．100 年以上も続いた技術パラダイムが変わる予兆を前にして、自動車業界が浮き足立っている。この動乱は、どこに落ち着くのであろうか。自動車における技術の進展は、かなりの確度をもっても読めるようである。ただし最も廉価な軽自動車に標準装備として完全採用されるには、現時点で一点もない。大衆車がＥＶ（電気自動車）や自動運転の完全版になることは、2050 年ですら考えにくい。

２．そこで気になるのが補完的な投資である。シェアリングは駐車場、ＥＶは充電設備、自動運転は車外の基地局とセンサーへの投資を必要とする。これらは周辺人口密度が高いほど、ペイしやすい。これまでの規模の経済、範囲の経済、ネットワークの経済と競争の焦点は変化を遂げてきたが、いよいよわれわれは「密度の経済」の時代を迎えることになるかもしれない。

３．だとすれば、われわれは大きな矛盾に直面することになる。人口密度の低い地域ほど、安価で簡便な移動手段を必要とするのに、技術革新の恩恵にあずかるのは富裕層と大都市になってしまうのである。技術革新の方向として、これは正しくない。企業家の問題がここにある。

（参考：「週刊東洋経済」2018 年 12 月 1 日号）

経営者のための社会学

廃棄物管理の問題

マーカス・スタイレマン（コベストロＣＥＯ）

１．コベストロ（ドイツを代表する製薬メーカーのバイエルから「素材部門」が分離独立して 3 年以上たつ）は、2010 年ころより生産工程におけるマイクロプラスチック流出防止を目標とした社内キャンペーンを始めている。8 年も前から、この問題に取り組み始めた理由は、それが正しいことだからです。海への流出は看過できない。

２．欧州では、2013 年に素材メーカーや加工メーカーなどの業界団体の主導で、「ゼロ・ペレット・ロス」という運動が始まった。ペレットとは、成形する前の顆粒状にした素材のことで、加工する段階での流出防止に主眼を置いていた。私は、人類が直面しているのは海洋プラスチック問題ではなく、「廃棄物管理の問題」であることを強調したい。

（参考：「週刊ダイヤモンド」：2018 年 12 月 1 日号）

経営者のための危機管理

判断基準を「会社」から「消費者」に

布施　孝之（キリンビール社長）

１．キリンビールは長期的な負け戦の中にいました。勝ち続けるためには企業の体質が変わらないと難しい。気がつけば、社員の判断基準は会社本位になっていました。シェアが減少すると目先の数字が欲しくなり、新商品を乱発してしまう。本丸のビールで（アサヒビールの）「スーパードライ」と勝負しても、不利だし、負けるのが怖いから、真っ向勝負を避けていました。

２．だから、社長就任以降、社内で念仏のように「どこの企業よりもお客様のことを一番考える組織風土にする」と言い続けてきました。判断基準を消費者に戻したかったのです。消費者のことを一番に考える会社になれば、消費者は自発的にキリンビールの商品を選んでくれると思います。そうなれば、安売りもなくなる。

（参考：「日経ビジネス」2018 年 12 月 24 日・31 日号）

古典に学ぶ

良習慣を養う

（解説）習慣とは人の平生に於ける所作が重なりて一つの固有性となるものであるから、それが自ら心にも働きにも影響を及ぼし、悪いことの習慣を多く持つものは悪人になり、良いことの習慣を多くつけている人は善人となると言ったように、遂にはその人の人格にも関係してくるものである。ゆえに何人も平素心して良習慣を養うことは、人として世に処する上に大切なことであろう。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」）：国書刊行会